

# af News

## 平成27年度 研究助成金贈呈式

旭硝子財団は、5月26日午前、関係者列席のもとに経団連ホールにて研究助成金贈呈式を開催しました。石村理事長による開会の挨拶、大村謙二郎選考委員長による選考経過の説明に続いて、理事長から助成金受領者の方々へ贈呈状が手渡されました。引き続き、鈴木敏之・文部科学省研究振興局学術研究助成課長よりご祝辞をいただきました。最後に、助成金受領者を代表して松田一成・京都

大学教授からご挨拶があり、贈呈式を終えました。その後、別会場で懇親パーティーが行われました。国内で新規に採択された助成研究は81件、これに過年度からの継続分23件を合わせ、国内の研究助成総額は2億4,600万円です。  
☞ 本年度に新規採択された助成研究については、当財団のホームページ【研究助成→採択一覧】をご参照ください。



石村理事長による贈呈状の授与



受領者代表  
松田一成 京都大学教授



## 第24回ブループラネット賞 受賞者紹介

旭硝子財団は、地球環境問題の解決に向けて貢献をした個人または組織に対して、その業績を称える地球環境国際賞「ブループラネット賞」を1992年に創設し、以来毎年2件の表彰を継続しています。

### パーサ・ダスグプタ教授(英国)

ケンブリッジ大学経済学部フランク・ラムゼイ名誉教授

#### 【受賞理由】

ダスグプタ教授の先駆的な功績は、世代間の公平性と持続可能な開発の二つの概念が同等であることを示し、開発経済学および環境経済学を統合したことである。また、環境資源基盤が劣化していく状況にある、発展途上国の農村部の貧困を対象とした研究の草分け的存在でもある。こうして、過去にはまったく異なる分野であった開発経済学と環境経済学という分野が統合された。人類の幸福から自然環境までを扱った幅広い内容の著書では、経済的発展の評価にあたり、GDPや現在広く用いられている場当たり的な幸福の指標ではなく、包括的な国の富(ストック)でもって行うことが適切であることを示した。こうした研究をもとに、国家の経済的会計の理想的なシステムが作り出され、今やインドや他の数か国において導入され成果を上げている。教授は、ライフワークとして自然のシームレスな経済的意味付を行い新しい経済理論を形成し、現代の経済思想に多大な影響を与えてきた。



### ジェフリー・D・サックス教授(米国)

コロンビア大学地球研究所所長

#### 【受賞理由】

サックス教授は開発途上各国の経済再建に、経済危機を乗り越えて持続可能な発展を実現する輝かしい実績を残してきた。学際的かつ革新的な「臨床経済学」を適用することで人類の平等を押し進め、ガバナンス、貧困、公衆衛生、教育、環境における諸問題を解決するために、小規模農業、社会事業、経済発展を促進して極度の貧困の克服に貢献してきた。学者、実践者、政府や国連の上級顧問として、これまで世界に多大な影響を与えてきた。

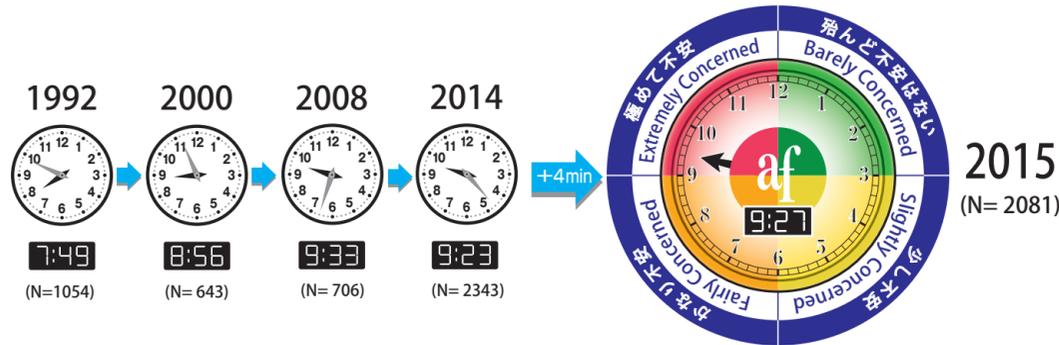


## 第24回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査結果

旭硝子財団は、環境問題に携わる世界の有識者を対象に、環境問題に対する様々な取り組みに関する意識調査を1992年以来継続して行っています。2015年4月～6月に実施した調査の中から「環境危機時計®」について報告します。調査結果はホームページ(<http://www.af-info.or.jp/>)にも掲載しておりますので、ぜひご参照ください。(アンケート回収数 2,081 (うち国内 452, 海外 1629), 回収率 8.2%)

### ✦ 人類存続の危機に対する認識「環境危機時計®」 ✦

2015年の環境危機時計®の世界平均は昨年度の9時23分から4分進み9時27分を記録しました。日本は前年と比べて針が5分進み9時9分でした。



## 顕彰事業の理解促進および協力者拡大の活動

旭硝子財団は顕彰事業を広く国内外で知ってもらい、ブループラネット賞のノミネーターや環境アンケート回答者を拡大するとともに、環境問題に対する一般認識の向上を図っています。

8月10日から12日にかけてタイのバンコクで開催されたIUCNアジア地域自然保護フォーラム(IUCN Asia Regional Conservation Forum)に出席し、展示を行いました。ブループラ



IUCNアジア地域自然保護フォーラム(バンコク)にて

ネット賞に関し多くの質問を受け説明を行いました。環境アンケートに対しても興味を持つ参加者が大変多く、なかでも1巻から11巻までをセットで配布した環境危機時計®のキャラクターコミック「ぐりとウッドンの水の王国だいぼうけん」英語版は、展示開始後すぐに無くなってしまふほど会場での注目を集めました。

日本語版のコミック「ぐりとウッドンの水の王国だいぼうけん」は、8月刊行分で12巻目になりました。国内では8月に練馬区のリサイクルセンターで、「環境問題を考える週間」の展示にあわせてこれまでのコミックを配布いただきました。また、葛西臨界水族園では、刊行時に最新号を配布いただいています。

ぐりとウッドンの水の王国だいぼうけん 12巻



## 『生存の条件』フランス語版刊行



旭硝子財団では2010年に『生存の条件』の日本語版・英語版を刊行しました。この本は世界各国で好評を博し、海外の協力者によりさまざまな言語への翻訳が進められ、2011年の中国語(簡体字)版、韓国語版に続き、2012年にはアラビア語版、2015年にフランス語版が刊行されました。

## 公益財団法人 旭硝子財団

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3  
サイエンスプラザ2階  
TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871

URL <http://www.af-info.or.jp>  
E-MAIL [post@af-info.or.jp](mailto:post@af-info.or.jp)

# 2015 旭硝子財団 助成研究発表会 (国内)

7月28日、ホテルグランドヒル市ヶ谷において、助成期間を終えた研究プロジェクト76件の成果発表、ならびに助成期間中の大型研究プロジェクト18件の中間発表が行われました。発表者をはじめ、当財団の選考委員、ご来賓、さらには現在研究助成を受けている研究者など、多くの関係者にご出席いただきました。開会にあたり、石村理事長の挨拶に引き続き、中西八郎選考委員長(東北大学名誉教授)から開催にあたっての趣旨説明が行われました。その後、専門分野ごとに夕方まで3つのセッションに分けて、3分間スピーチ

とポスターによる研究発表が行われました。それぞれのポスターの前では、専門分野の異なる研究者が集まって活発な意見交換が行われました。得られた成果についてだけでなく、今後どのような方向に研究を進展させるべきかといったことについて幅広くディスカッションが行われ、新たな学術共同関係が生まれるなど、大変に有意義な場となりました。発表終了後には同じ会場で懇親会が開かれ、参加者の方々による交歓が行われました。



ポスター発表会場



研究発表ポスター

# 海外研究助成金贈呈式ならびに研究成果発表会

## タイ・チュラロンコン大学(CU)



Mongkol 副学長, 石村理事長, 助成金受領者と関係者



石村理事長による贈呈状の授与



セミナーでの発表

6月15日、チュラロンコン大学において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。石村理事長とMongkol副学長からの挨拶に続いて、今年度の助成対象者10名に贈呈状の授与が行われました。セミナーでは、Dr.Suttichai Assabumrungrat教授による水素製造のための多機能反応装置とプロセス研究に関する記念講演に引き続き、2つのセッションに会場を分けて、合計10件の研究成果が発表されました。また会食の席でPirom学長と石村理事長による2016年から3年間の助成プロジェクトの覚書が取り交わされました。



Pirom 学長と石村理事長による MoU の取交し

## タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校(KMUTT)

6月16日、キングモンクット工科大学トンブリ校において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。Bundit Fungtammasan副学長による選考経過の説明、Prasert Kanthamanon副学長の挨拶、石村理事長からの挨拶に続いて、新規助成対象者7名のパネルによる研究予定内容の紹介や贈呈状の授与が行われました。その後、過年度の助成対象者6名の研究成果が発表されました。



Fungtammasan 副学長, 石村理事長, 助成金受領者と関係者

## インドネシア バンドン工科大学(ITB)

9月2日、バンドン工科大学の講堂において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。研究期間を終了した16件のプロジェクトの研究成果発表が行われ、引き続き、学長のKadarsah Suryadi教授、石村理事長の挨拶に続いて、助成対象者16名に贈呈状が授与されました。またKadarsah学長と石村理事長による2016年から3年間の助成プロジェクトの覚書が取り交わされました。



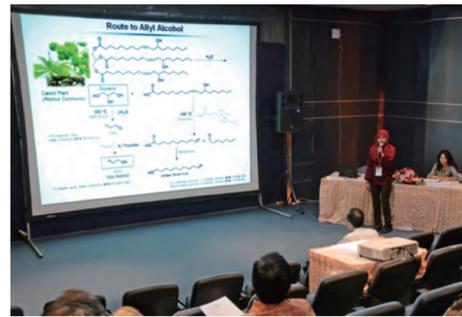
アングルの記念演奏



Kadarsah 学長, 石村理事長, 助成金受領者と関係者



石村理事長による贈呈状の授与



研究成果発表会でのプレゼンテーション



Kadarsah 学長と石村理事長による MoU の取交し



石村理事長と助成金受領者



新規助成金受領者による研究紹介



セミナーでの研究成果発表